

第3回非核平和都市宣言起草委員会協議資料

平成22年11月17日（水）10時00分
京田辺市役所3階301・302会議室

京田辺市平和都市推進協議会
非核平和都市宣言起草委員会

目 次

議題	(仮) 起草案 (案) の検討について	1
案1		2
案2		3
案3		4
案4		5
案5		6
案6		7
案7		8
案8		9

議題 (仮) 起草案 (案) の検討について

案 1

やすらぎと希望に満ちた平和な日々を送ることは、人類共通の願いです。

この切なる願いにもかかわらず、この地球上では、各地で紛争が起き、戦火の絶える間もありません。さらに、地球をも破壊しかねない大量の核兵器が蓄積されています。

2010年、米国のオバマ大統領が「核廃絶を目指す」と明言したプラハ演説の実現に向けて行動を開始しました。広島での平和記念式典には、米国大使をはじめ、国連総長、英仏代表が初めて出席し、世界が核廃絶に向けて動き出した記念すべき年となりました。

私たちは、世界唯一の核被爆国民として、薄れつつある核兵器の惨状の記憶を新たにし、再びこの地球上に広島、長崎の惨禍を繰り返してはならないことを、全世界の人々に訴えていかなければなりません。

私たち京田辺市民は、核廃絶を強く訴えます。

私たち京田辺市民は、日本国憲法に掲げられた恒久平和の理念を市政に生かし、緑豊かで健康な文化田園都市作りをめざします。

私たち京田辺市民は、この愛すべき豊かな自然と歴史に満ちた郷土を子々孫々まで継承するために、非核平和都市たることを宣言します。

案2

真の恒久平和は、人類共通の念願です。

世界のすべての人々が、生命を大切にし平和で豊かな生活をする事ができ、互いに思いやりの心を持つことが世界平和への根本精神です。このような根本精神に基づき日本国憲法に掲げられた恒久平和の理念を生かし世界の平和を追求します。

私たちは、世界唯一の原爆被爆国民としてこの地球上に広島・長崎の惨禍を二度と繰り返さないよう全世界に働きかけるとともに、あらゆる国の核兵器の廃絶と軍縮を強く訴えます。

緑豊かな文化学術研究都市をめざす京田辺市は、豊かな自然と文化を後世に残し真の恒久平和の意味をかみ締め非核平和都市として歩むことを宣言します。

案3

私たちの願いは、世界の平和と緑の地球を守ること
そして緑豊かな自然あふれる京田辺市を未来の子
どもたちに残すことです。

しかし、いまでも世界のどこかで戦争やテロなど人間の
命の尊さを踏みにじるような争いが続いています。
そして核兵器の開発も続けられ、私たちの平和なくらしは、
常に危機に脅かされているのです。

1945年8月、日本は唯一被爆国となったのです。
私たちは知っています。核兵器が生きとし生きる
ものすべてを破滅しつくして何も残さないことを

私たちは、訴えます。核をもつすべての国々に
すべての核兵器を今すてよと！

この市民の声と願いを世界に広く訴えるため
ここに京田辺市は「非核平和都市」を宣言する。

案 4

真の恒久平和は人類共通の念願です

世界で唯一の核被爆国民として未来の世代に対して核兵器の恐ろしさと対話、非暴力の正道を厳然と示しゆく責務があり使命がある。

平和は一人一人の心の平和から始まります

人間の心に平和の砦を築き上げていかなければなりません

京田辺市は豊かな自然に囲まれたまちです

わたしたちは全ての命を大切に互いが互いの幸福を願って励まし合い信頼、尊敬しあい人間の善の連帯を家族、地域、社会に広げながら核兵器のない平和な世界を目指しゆくことを誓いここに非核平和都市宣言とします。

案5

— 前文 —

2010年、米国のオバマ大統領が、「核廃絶を目指す」と名言したプラハ演説の実現に向け行動を開始しました。

また、広島の平和記念式典には、米国大使をはじめ、国連総長、英仏代表が初めて出席し、世界が核廃絶に向けて動き出したこの記念すべき年に京田辺市が非核平和宣言をすることは、大変に意義深いことでもあります。

— 宣言 —

私たち京田辺市民は、唯一の被爆国民という意識を新たにし、人類が再び、同じ過ちを繰り返さないよう、核戦争の防止を求め、核兵器廃絶を強く訴えるものであります。

私たち京田辺市民は、一人の人間の命の重さと、平和の尊さ、大切さを絶対忘れぬよう、ここに「京田辺市非核平和都市」とすることを宣言します。

案6

戦争も、核兵器もない、平和な世界は、すべての人々の願いです。

今、世界は、「核兵器のない世界」を目指して動き出しています。

私達京田辺市民も、人の生命が尊ばれ、愛され、安心してらせる世界を作り出す為に、戦争を放棄した日本国憲法を守り、非核三原則を遵守し、再び戦争を、核兵器による惨禍を繰り返さない様努力することを誓い、京田辺市の非核平和都市宣言とします。

案7

木津川と甘南備山に囲まれた豊かな自然、先人の熱き心が育み築いてきた歴史や文化、そしてそこに息づく市民の笑顔。私たちは、このふるさと京田辺が大好きです

ふるさとを愛する心は、世界の誰もが持っています。人類のふるさとである美しい地球の上に平和な世界を築き、未来永遠に守り伝えることは人類の共通の願いです。

しかし、この願いに反して、今なお世界中で紛争は絶えず、人類は、核兵器の脅威にさらされています。

世界で唯一、原子爆弾により深い悲しみと苦しみを受けた日本国民の私たちは、非暴力と対話で、核兵器の廃絶と世界の平和を訴え続けなければなりません。

「戦争の悲惨さと平和や生命の尊さを、次代を担う子どもたちに伝えたい」

「ぼくたち、わたしたちも平和のためにできることをがんばります」

多くの市民から寄せられた平和メッセージは、世界平和への希望の光となることを信じます。

私たちは、思いやりと感謝の心を大切に、市民一人ひとりが平和の実現に向けて努力することを誓い、ここに京田辺市が非核平和都市であることを宣言します。

案 8

日本国憲法に謳われた世界の恒久平和は、世界人類の共通の願いである。

しかしながら核兵器の拡散や戦争は、東西冷戦が終わった今日もなおとどまるところを知らない。

私たちは戦争による世界最初の被爆国の国民として平和憲法の本質にのっとり核兵器の廃絶と世界の軍備縮小に向け積極的な役割を果たさなければならない。

わが京田辺市は世界の平和と人類の幸福を希求し、日本の国是といわれながら実質を伴わない面が多かった非核三原則を改めて遵守することと、地球上よりすべての核兵器と戦争行為の廃絶を求めるものである。

京田辺市の地上・上空を問わず、あらゆる国のあらゆる核兵器の持ち込みと通過をも認めないことを確認し非核平和都市を宣言する。